

平成28年度入試

【AO入試I(地域貢献人材育成入試)】問題

## 小論文

(生物資源科学部)

### 注意

- 1 問題紙は指示があるまで開いてはいけない。
- 2 問題紙は3ページである。解答用紙は5枚、下書き用紙は2枚である。指示があつてから確認し、解答用紙、下書き用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。
- 3 答えはすべて解答用紙の所定のところに記入すること。
- 4 解答用紙及び下書き用紙は持ち帰ってはいけない。
- 5 試験終了後、問題紙は持ち帰ること。

次の問1と問2の両方に解答しなさい。なお、解答は必ず問ごとに指定された解答用紙の所定の欄に記入すること。

下書き用紙は解答の下書き、考えのメモ、文章の構成等、裏面を含めて自由に用いてかまいません。ただし、下書き用紙も提出すること。

問1

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

サステイナビリティ<sup>注2</sup>：持続可能性

UIJ対策<sup>注3</sup>：Uターン、Iターン、Jターンを促進するための対策

出典：岡本義行「地域活性化の課題」 地域イノベーション：Journal for Regional Policy Studies, 7, 1 (2015年)

問1－1

この著者が述べていることを220字以内で要約しなさい。

問1－2

著者は「地方創成の政策に整合的なライフスタイルを考慮した総合的な政策を地域で実験的に実施していくことが必要であり」、そのためには、「生活のトータルのイメージや固定的な価値観を開いていくアイディアが求められる」と述べています。この考えに賛同する場合には、どのような「ライフスタイルのイメージ」や「固定的な価値観」を開いたら良いか考えて述べなさい。賛同できない場合には、その理由を述べそれに替わるアイディアを述べなさい。いずれの場合にも300字以内で答えなさい。

## 問2

図1と図2は、島根県と鳥取県における最近の人口の動向を把握するために、年ごとの出生者数、死亡者数、県外からの転入者数、県外への転出者数をグラフにしたものです。下の問2-1、問2-2、問2-3にすべて答えなさい。

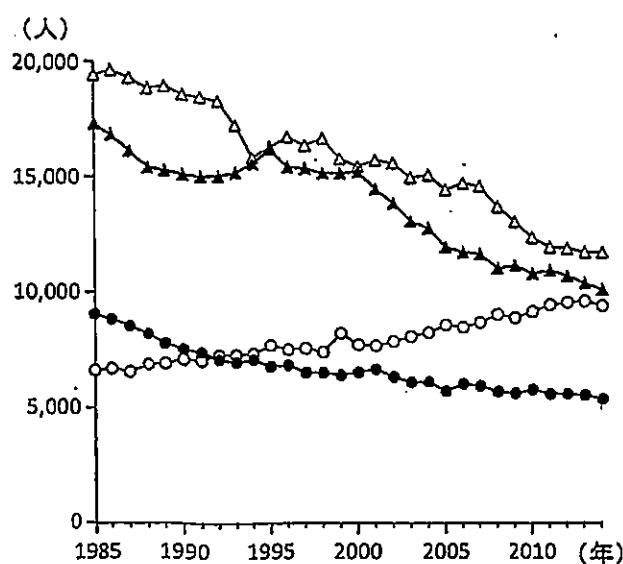


図1 島根県における1985年から2014年までの出生者数、死亡者数、県外からの転入者数、県外への転出者数の変化。●、○、▲、△はそれぞれ、年ごとの出生者数、死亡者数、県外からの転入者数、県外への転出者数をあらわす。

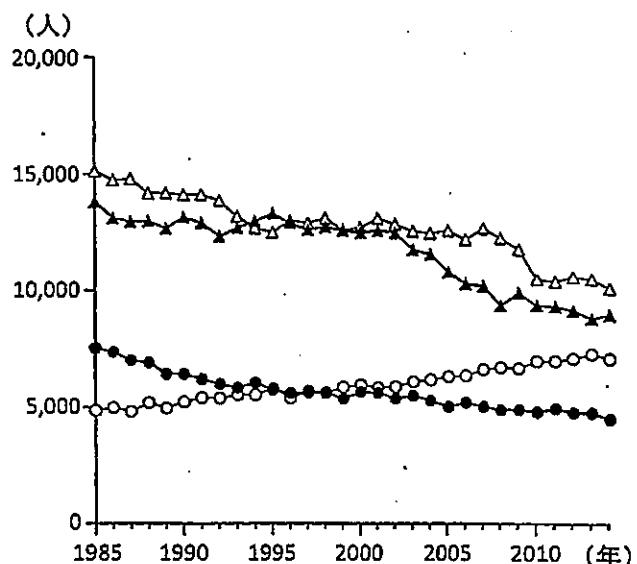


図2 鳥取県における1985年から2014年までの出生者数、死亡者数、県外からの転入者数、県外への転出者数の変化。記号は図1と同じ。

\*出生者数と死亡者数は「人口動態調査」(厚生労働省)、転入者数と転出者数は「住民基本台帳人口移動報告」(総務省)のデータを用いた。

### 問2-1

図1と図2から、2005年から2014年の間で島根県と鳥取県の人口が減少したか増加したかを判断し、なぜそのように図から判断できるのかを160字以内で説明しなさい。

### 問2-2

図1と図2を比較して島根県と鳥取県で異なるとあなたが考えることを1つあげ、その理由についてあなたの考えを200字内で述べなさい。

### 問2-3

人口の動向に関連づけて地域の振興策についてのあなたの考えを300字以内で述べなさい。島根県と鳥取県の両方あるいはどちらかの県について述べなさい。